

2) 大阪市教育委員会の取組み「介護タクシーを利用した気管切開児の通学支援」

大阪市教育委員会 指導部

主任指導主事

平岡 昌樹

現在、本市は12の特別支援学校を設置しており、内4校が肢体不自由の特別支援学校である。この4校には、現在医療的ケアが必要な児童生徒が合わせて102名在籍し、このうち、気管切開があり、かつ医療的ケアが必要なためにスクールバスに乗車できない児童生徒が26名である。

スクールバス運行中に吸引等の医療的ケアを行うことは、安全の確保、同乗している他の児童生徒の健康面への影響等の理由から認めておらず、気管切開のある児童生徒は、保護者の送迎のもと自家用車等で通学している。

今年度より、大阪市では児童生徒の安心安全な通学保障の観点から、医療的ケアが必要な児童生徒が看護師の付添いのもと介護タクシーで通学する事業を立ちあげた。対象となる児童生徒は、①気管切開によりスクールバスに乗車できない者、②主治医から看護師同乗により保護者の付添いなしでの通学を許可された者、③大阪市在住者の条件に該当する者である。

週2回、介護タクシーを配車し、看護師付添いのもと自宅から学校間の送迎を行う。看護師は、保護者・学校看護師と情報共有を行い、主治医の指示書に基づく医療的ケアの確認をし、安全な登下校を支援している。この事業のメリットとして、①通学時間が最短で済む、②緊急対応が生じた場合でも、他の児童生徒へ負担をかけることがない、③保護者負担の軽減があげられる。

保護者からは、①初めて子どもを見送った、②緊張して車を運転しなくてよくなった、③始業に間に合うように子どもが登校できた、④雨の日が楽になった、⑤運転が不要なく、子どもの様子を見守りながら登校できる等といった喜びの声が届いている。

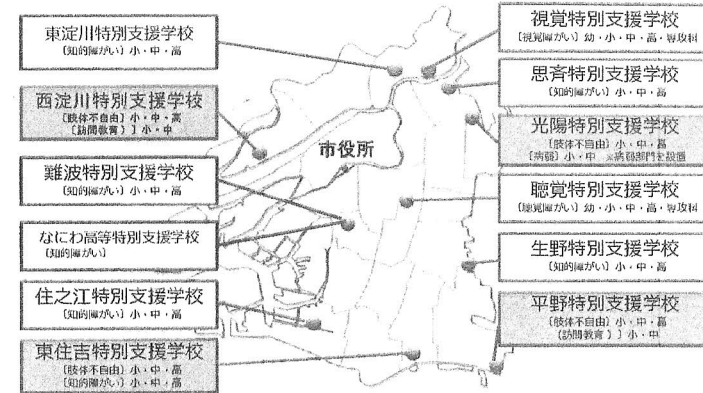
課題は、看護師確保が困難なことであり、教育委員会では、市政だよりへの掲載、ホームページへの掲載、ナースセンターへの登録、病院への訪問等、看護師確保に向けて調整を図っているところである。

介護タクシーを利用した 気管切開児の通学支援

大阪市教育委員会事務局
指導部 インクルーシブ教育推進担当
主任指導主事 平岡 昌樹

大阪市立特別支援学校 12校

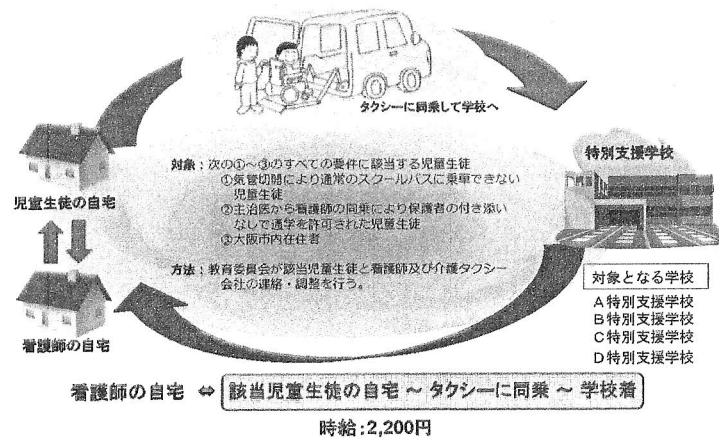
平成27年4月



※平成28年4月より大阪府へ移管

概要

医療的ケアが必要な児童生徒が看護師の付き添いのもと介護タクシーで通学する。



効果

- ・保護者の負担軽減：看護師同乗での通学により、児童生徒が安全安心に登校できる
- ・該当児童生徒の負担軽減：自宅からタクシーに乗車し、学校まで最短で登校できる
- ・緊急対応が可能：同乗する児童生徒がいないため、他の児童生徒へ負担をかけることがない

利用者の声

- ・初めて子どもを見送る姿を見た
- ・緊張して運転しなくてよかった
- ・始業に間に合うように子どもが登校できた
- ・雨の日は、車に乗るだけでも大変だった
- ・心待ちにしていた
- ・運転が必要なく、子どもの様子を見守りながら登校できる

課題

- ・看護師確保

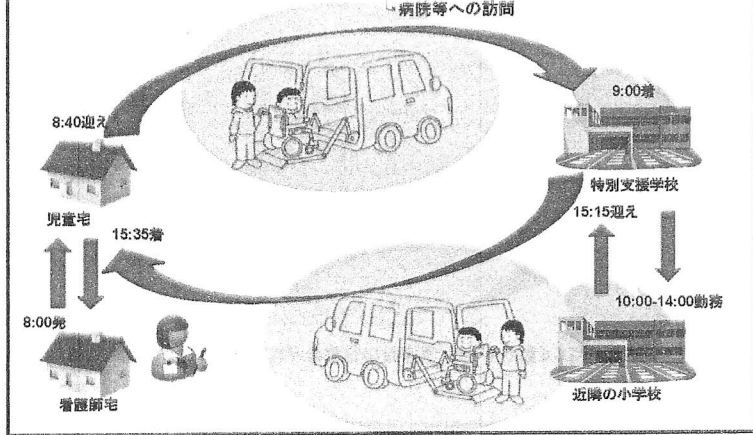


看護師さん確保のために

(現在の看護師さんの勤務例)

教育委員会の取り組み

- ・大阪市教育委員会ホームページへの掲載
- ・市政だより・区民だよりへの掲載
- ・ナースセンターへの登録
- ・病院等への訪問



大阪市教育委員会事務局
指導部 インクルーシブ教育推進担当

主任指導主事 平岡昌樹

〒五三〇八二〇一
大阪市北区中之島一丁目三番二〇号
電話(〇六)六二〇八一九一九三番

<第6回大阪の小児在宅医療を考える会プログラム>

2016年1月17日 大阪市立総合医療センター さくらホール

☆大阪市教育委員会の取組「介護タクシーを利用した気管切開児の通学支援」

大阪市教委指導部主任指導主事 平岡 昌樹 さん 報告

※報告後フロアからの質問などに応えられたことも含め (パワーポイント報告:資料補足メモ)

*府立に4月から移管されるが、制度はどうなるの?

→府立に移管されて大阪市教委独自の施策としてすすめる。(大阪市内対象)

現府立支援校までは答えられない

*大阪市立の支援学校は12校あり、4校が肢体不自由校

医療的ケア必要な児童生徒は4校全体で102名、そのうち気管切開している児童生徒は26名

*H27年5月からスタートして、今年度21名が利用している。(週2回 70日)

H28年度からは、100日 週3回へ拡大を考えている

訪問籍の児童生徒さんの学校へのスクーリングにもこの制度を利用してもらっている

*添乗する看護師さんの確保が本当に難しい。あらゆる手段を使い募集をかけている。

第3号研修認定されたヘルパーさんでも添乗可能に福祉局とも調整した。

学校看護師さんとは別の雇用扱い、看護婦さんのニーズに合わせて入ってもらっている

・【登録日～平成28年3月31日】非常勤嘱託職員(看護師:介護タクシー同乗)を募集中です

大阪市教委 2015年10月7日

<http://www.city.osaka.lg.jp/kyoiku/page/0000285229.html>

*介護タクシーに乗れる、児童生徒利用の車いすの大きさによってリフト付きでも車種(タクシーのタイプ)を確保するのも難しい。

・大阪市立小・中学校及び特別支援学校

重度障がい児通学等タクシー事業者登録にかかる業者の公募について

大阪市教委 2015年3月31日

<http://www.city.osaka.lg.jp/kyoiku/page/0000305981.html>

*早い児童生徒で自宅から学校まで10分以内で到着している

これまで雨の日も自宅で自家用車に乗せるのも大変だったし助かる。

運転していても大丈夫かとひやひやしていたが、その緊張感から解放された。

始業時に間に合い他の仲間と朝の会にでられる …など保護者から喜びの声がたくさんある。

記:2016年1月17日 医ケアネット事務局 中畑

第6回 大阪の小児在宅医療を考える会プログラム

- ・開催日時：2016年1月17日（日）10:00-16:30
- ・開催場所：大阪市立総合医療センター さくらホール
- ・テーマ：「小児の地域包括ケアの構築を目指して」-医療と福祉の連携
“医療従事者はもっと重症児のための地域の福祉支援を知ろう！”

- ・開会あいさつ（10:00-10:05）

船戸 正久（当番会長 大阪発達総合療育センター副センター長）

足立百合奈（大阪府健康医療部保健医療室地域保健課母子グループ課長補佐）

1. 講演（45分）（10:05-10:50）

座長：船戸正久（大阪発達総合療育センター副センター長）

「知ってみよう、重症児者を支える総合支援法の世界」

ベルデさかい施設長、児玉和夫（こだま かずお）

2. 指定演題（各15-20分）（10:55-11:40）

座長：鈴木保宏（大阪府立母子保健総合医療センター患者支援センター）

1) 病院での在宅移行支援 高槻病院副院長、南 宏尚（みなみ ひろたか）

2) 療育施設での在宅移行支援

大阪発達総合療育センター訪問診療科部長、和田 浩（わだ ひろし）

3. 報告（各5-10分）（11:45-12:15）

座長：位田 忍（大阪府立母子保健総合医療センター患者支援センター）

1) 大阪府と府医師会の取組み「シミュレーション人形を使った医療的ケア研修」

大阪府医師会理事 藤森次勝（ふじもり つぎかつ）

2) 大阪市教育委員会の取組み「介護タクシーを利用した気管切開児の通学支援」

大阪市教育委員会指導部主任指導主事、平岡 昌樹（ひらおか まさき）

3) 大阪市立大学の取組み「重症児の在宅支援を担う専門職養成のための

インテンシブコース」

大阪市立大学大学院医学研究科 発達小児医学教室教授

新宅治夫（しんたく はるお）

（昼食）

4. シンポジウム（各10分）（13:00-14:00）

「知っていますか、重症児のための地域での福祉支援」

座長：大谷悟（大阪体育大学健康福祉学部教授）

- 1) 知ってみよう、児童発達支援センターの働き
今川学園キンダーハイム施設長、北畠正寛（きたばたけ まさひろ）
- 2) 知ってみよう、ショートステイの働き
多機能型施設 ばあばのおうち代表、小畑由美子（こばた ゆみこ）
- 3) 知ってみよう、医療的ケア対応の居宅（訪問）介護の働き
有限会社しえあーど管理者代行、達 美奈（だる みな）
- 4) 知ってみよう、相談支援事業所の働き
相談支援事業所ていんがーら管理者、森 統一（もり のぶかず）

5. 一般演題（各発表6分、質疑3分）（14：00－15：15）

座長：最上友紀子（大阪府立母子保健総合医療センター小児神経科）

下田公子（淀川キリスト教病院医療社会事業課）

- 1) 当センターの利用児者からみる相談支援事業の現状と課題
社会福祉法人 愛徳福祉会 大阪発達総合療育センター
相談支援事業所いぶき 相談支援専門員 前田好亮（まえだこうすけ）
- 2) 重度心身障害者の日中支援について
吹田市立障がい者支援センター あいほうぶ吹田 中井真由美（なかいまゆみ）
- 3) 主に重症心身障がい児を対象としたデイサービスの取り組み
児童発達支援・放課後等デイサービス はつかぜ
児童発達支援管理責任者 竹本由子（たけもと ゆうこ）
- 4) 当ヘルパーステーションにおける医療的ケアの現状と課題
社会福祉法人 愛徳福祉会 大阪発達総合療育センター
ヘルパーステーション めぐみ 宮崎俊也（みやざきしゅんや）
- 5) 訪問介護事業所における医療的ケアの現状
ケアステーションフクちゃん サービス提供責任者 大田麻衣子（おおたまいこ）
- 6) 重度心身障害児を育てながら実現した社会復帰
児童デイサービス Primo 榊原文（さかきばら あや）
- 7) 大阪府における小児訪問看護の現況
訪問看護ステーション愛仁会高槻 田口敬代（たぐち たかよ）

6. ロールプレイ（50分）（15：20－16：15）

「在宅移行後の支援」（企画担当：塩見夏子・望月成隆・春本常雄氏）

総合司会：望月成隆（大阪府立母子保健総合医療センター新生児科）

解説： 春本常雄（東大阪生協病院小児科）

・閉会あいさつ（16：20－16：30）

榮木 教子（大阪府訪問看護ステーション協会）

中尾 正俊（大阪府医師会副会長）